



四万十町
町内ぶら〜り散策

木屋ヶ内



国道381号と439号の分岐点・大正新橋から櫛原川に沿って北へ4km行ったところから木屋ヶ内。現在の国道は、さらに東へ蛇行する櫛原川沿いを行くのだが、今、川向こうにトンネルができようとしている。

工事中のトンネルを左手に見ながら、現在の国道を東へ行くと、すぐに中之島公園の岩場が現れる。さらに進み、今度は北西へと大きく曲がっていく。右手の山沿いに木屋ヶ内の集落がある。

実は、木屋ヶ内地区はここだけではない。木屋ヶ内には「赤岩（あかいわ）」と「古宿（ふるしゆく）」という集落がある。この二つの集落は、木屋ヶ内集落の背後（東側）に連なる山（黒岩山・後山）の向こう側にあり、中津川沿いである。木屋ヶ内集落と赤岩古宿集落との互いの行き来について聞いた。「昔は片道30分の道のりを山を越えて行き来しよったけど、今はさすがに大奈路経由やね」。

木屋ヶ内という地名は「小さな谷川のあるところ」からきているという。中世の記録には「小屋河内村」とあり、木屋ヶ内という表記になったのは近代になってからのようである。

さて、木屋ヶ内集落の国道沿いに「木屋ヶ内遺跡」の石碑が建っている。この少し上方で遺跡は発見された。圃場整備中に石斧（せきふ）が発見されたことをきっかけに調査が始まり、数千点に及ぶ縄文石器片や土器片などが発掘された。中でも興味深いのは、それらが埋蔵されていた地層で、これは約6300年前の種子島沖火山の



木屋ヶ内遺跡の石碑

大噴火による火山灰であることがわかつていく。噴火の凄まじさは、遠く東北南部にまで、この火山灰の層が見られることから推察されるという。この噴火による壊滅的被害から逃れるために南九州縄文人の一部が黒潮本流に乗って木屋ヶ内にたどり着いたのではないかという説がある。和歌山県紀ノ川流域、東京都八丈島などの黒潮本流流域に、同時代の、しかも同じ形状の石斧が発見されていることなども、この説を裏付けるものであるとされている。木屋ヶ内遺跡が四万十町を代表する貴重な遺跡であることは言うまでもない。

この遺跡が発見された場所のすぐ隣には、地区の産土神である河内神社があった。といっても今から200年以上前までである。その名残として、数十年前には、それはそれは立派な椎の木の下に、木が切り株があったそう。地区の人の話では「集落の下の方にあると下水の類が流れていってしまうのだ」という理由で、現在の場所に移されたのだということである。（来月に続く）

町のうごき

(11月30日)	人口	前月比	出生	死亡	転入	転出
男	7,696	－9	男 3	13	13	12
女	8,435	－11	女 3	10	11	15
計	16,131	－20	計 6	23	24	27
世帯数	8,249	－6	(11月中の届出)			

窪川地域 11,445人 大正地域 2,245人 十和地域 2,441人

四万十川の 水質状況

	適正值(mg/l)	12月2日
リン酸	≤ 1.0	測定範囲以下
硝酸	≤ 0.5	測定範囲以下
アンモニウム	≤ 5.0	測定範囲以下
アニオン活性剤	≤ 1.0	測定範囲以下
化学的酸素要求量	≤ 10.0	0.2

調査：大正（吾川）
資料：四万十高校自然環境部

四万十町通信

2022.1月号

Vol.190（毎月10日発行）

●発行／四万十町企画課

●印刷／窪川印刷

〒786-8501 高知県高岡郡四万十町琴平町16-17

☎ (0880) 22-3124

FAX (0880) 22-3123



本文など内容の一部に見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。